

南阿蘇村農政課×SUNITED（株）間の共創までのプロセス（事例①）

- 耕作放棄地解消の一環で栽培される「そば」について、域外企業の目線で、地域の農業者から見えづらい価値を提示するとともに、付加価値に見合う販売価格で買取を行う卸先との仲介を実施。
- 参画企業は、地域と卸売業社の仲介（地域産品の価値発見、卸売先との価格交渉）を担う。
- 参画企業においては、これまで接点のなかった地域の課題解決に寄与することで信頼関係を構築し、更なるソリューションの提案につなげる。

年間の動き（タイムライン）

課題把握・提案受付

- 南阿蘇村（以下「村」）から事務局に対し、耕作放棄地対策として実施するそば栽培を促進するため、販売先の拡大、高収益化に資する提案を募集。
 - …①課題（初案）の提出
- 複数の企業が事務局に対し、販路拡大に向けた物流網の見直しや新商品開発支援等のソリューションを提出。
 - …②他社（複数）のソリューション提出

提案内容の共有

- 事務局と村との打合せにより、地域の特産品のプレゼンス向上に資する「域外を視野に入れた販路拡大」と「域内農家のそば栽培への関心の向上」を課題として設定するも、達成手段が検討できない状況。個別マッチングを進めることにより採用可能な手段を検討することを決意。

個別マッチングの実施

- 事務局、村、ソリューション提出企業が出席する個別マッチングにおいて、課題に合致し得る様々なソリューション（上記②のもの）を紹介するも、対応優先度の都合などから2回目には続かない状況が続くため、解決策の深堀りを進め、最終的に、そば、有機野菜の対外ブランディングを優先課題として位置付け。
 - …③課題・解決策の要素分解

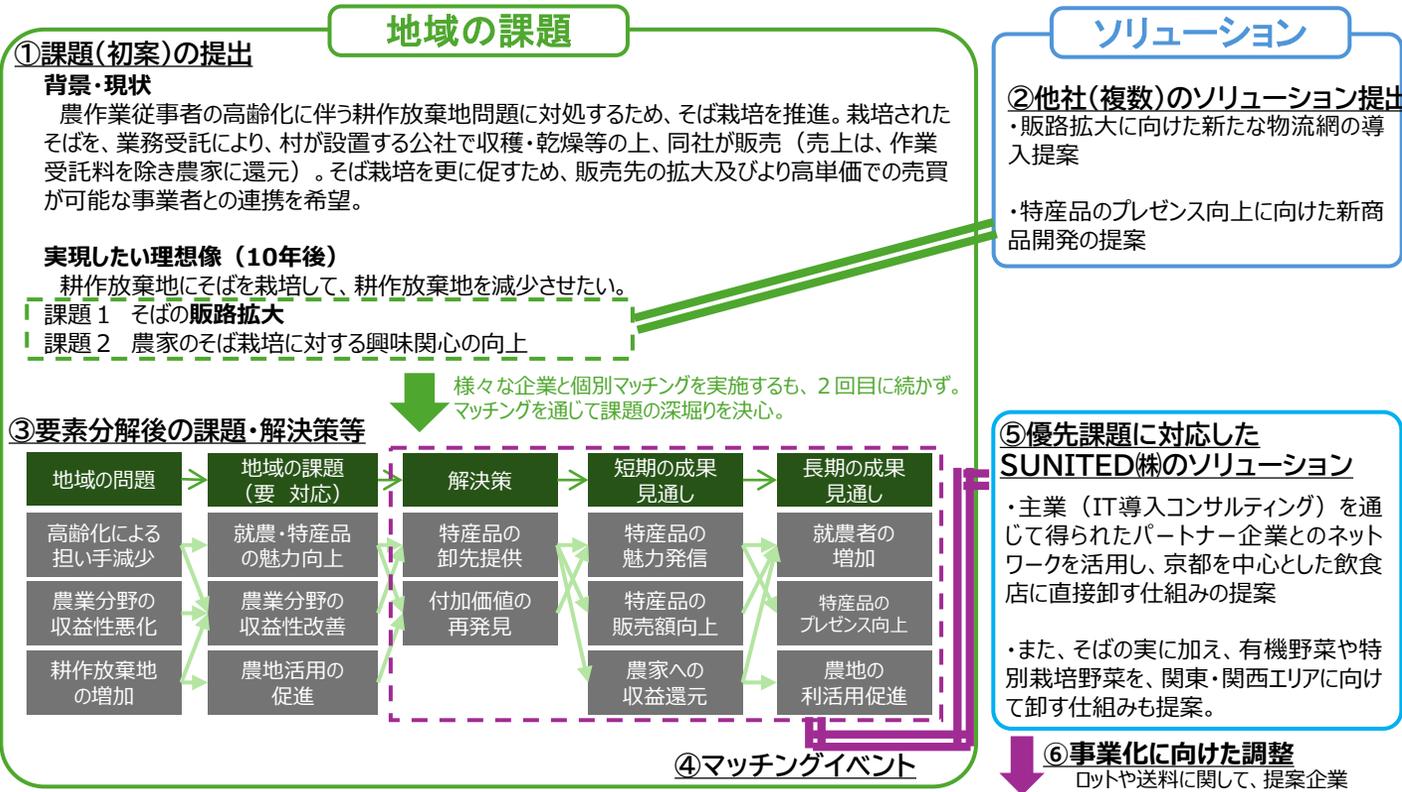
マッチングイベント

- 多数の企業に対して、村から、課題と「域外の視野も入れた販路拡大」の必要性を広く情報発信。
 - …④マッチングイベント
- マッチングイベントに参加したSUNITED(株)が事務局に対し、自社とパートナー企業とのネットワークを通じて、地域で栽培したそばを域外に卸売することが提案可能と連絡。同社の提案内容を紹介の上で、個別マッチングをセット。
 - …⑤優先課題に対応したSUNITED(株)のソリューション

マッチング後の伴走

- 官民双方の打合せにて、そば以外の有機野菜等を直接卸売するための方法を議論。
- そばについては、ソリューション提案企業とパートナー企業との間で、ロットや送料に関する条件を整理し、村に提案することで合意。
 - …⑥事業化に向けた調整

共創に向けた情報の整理



第3部 事例① 「特産品の販路拡大に向けた域外卸先の提供」 (1/2)

南阿蘇村農政課×SUNITED (株)

分野/テーマ：「農業」 / 特産品の販路拡大

① 市町村の概要と課題

- ・熊本県北東部の阿蘇山、阿蘇カルデラの南部に位置する村
- ・農作業従事者の高齢化が進む中で、自身の所有する土地の耕作が困難になり、耕作放棄地が増えている
- ・豊かな水資源などを活用して「そば」の栽培を推進していくことで耕作放棄地の減少を目指す
- ・上記に向け、地域で栽培される「そば」のプレゼンス向上と収益性の改善を望んでいる

② 共創に向けたソリューションの概要

- ・南阿蘇村を中心として周辺地域にて販売消費されていた「そば」について、域外企業の目線から地域の農作業従事者では気づきづらい付加価値を見出すとともに、付加価値に見合った販売価格での買い取りが可能な卸先の仲介を実施

④ 官民共創における連携体制の構築イメージ

- ・村の希望する販売価格と卸先の希望する購入価格の仲立ちを提案事業者が実施
- ・提案事業者が主導となり、南阿蘇村産「そば」の強み（化学肥料や農薬の使用を極力控えて栽培）を整理することで、有機野菜や特別栽培野菜を求める卸先とのスムーズな商談が可能となった

販路拡大に向けた体制



③ 課題の提示において事業者が求めていた点

- ・提案事業者は、官民を問わず幅広いビジネスパートナーとの協業を行う事業者であり、地域の支援、地方創生に資する取組への意欲が非常に強く、全国各地に連携パートナーのネットワークを広げていきたい意向があった
- ・今回の南阿蘇村との共創については、今まで接点のなかった地域の行政との連携にもつながり、同社の意向に基づくネットワークを広げるきっかけにもなった

⑤ 官民共創・マッチング実現のポイント

- ・提案事業者は、ネットワーク形成を進めるにあたって市町村の持つ地域活性化に向けた課題や産業特性、保有するリソース等を把握することを望んでいた
- ・今回の共創では、9月に開催されたマッチングイベントにおいて、南阿蘇村より詳細な村の情報（共創時の所管部署、活用可能な資源とその活用方法）が発信されていたため、提案事業者においても共創イメージを持ちやすく、スムーズな協議を進めることができた



⑥ 今後の連携の流れ

- ・事業期間中の共創においては、販路拡大支援の対象商品は「そば」のみであったが、南阿蘇村にて栽培されているその他の野菜、作物についても化学肥料の使用が控えられた品質の高いものであるため、今後は取扱商品を広げて行き、提案事業者の持つネットワークにより、ニーズの合う卸先の提供を継続していく方針